

平成24年度病害虫発生予察特殊報第1号

平成24年11月15日
愛 知 県

1 病害虫名：シイノコキクイムシ（キクイムシ科）
Xylosandrus compactus (Eichhoff)

2 発生作物：カトレア（ラン科）

3 発生地域：東三河地域

4 発生確認の経過

平成24年7月下旬、東三河地域の温室栽培のカトレアにおいて、下部が木質化したバルブに直径1mm弱の円形の孔があき、その上部が次第に褐変、やがて枯死する被害を確認した（図1～3）。加害されたバルブを解体すると、内部には孔道が見られ、卵、若齢～老齢幼虫、蛹、羽化直後の成虫など様々なステージにあるキクイムシが、木くずとともに見つかった（図4～6）。キクイムシ成虫の同定を農林水産省名古屋植物防疫所へ依頼した結果、シイノコキクイムシであることが判明した。

発生を確認した農家は1戸で、被害を確認できたほ場は1ほ場のみであった。

5 形態及び生態

(1) 形態

雌成虫は体長が1.3～1.7mm、短い円筒形で、光沢をもつ黒色または暗赤褐色をしている。同属のハンノキキクイムシに酷似するが、それに比べ体は小さいこと、上翅後半部の溝には毛列をそなえることなどで区別される。

(2) 生態と被害

野外では、各種広葉樹を加害し、年2回発生する。7～8月に第1世代幼虫、8～9月に第2世代幼虫が現れる。成虫が加害樹の孔道内で越冬する。越冬後、6～7月には孔道を出て飛翔分散して、新たな広葉樹の枝などを穿孔し、孔道をつくる。成虫は孔道内にカビ（アンブロシア菌）を持ち込み、ふ化した幼虫は、増殖したカビを食べて生育する。穿孔された枝幹は、それにより上部が枯死し、多発すると枝枯れ症状を呈する。

(3) 分布及び加害作物

本種は日本をはじめ、中国、台湾、ベトナム、インドネシア、フィリピン、インド、アメリカ、ブラジル、ニュージーランド、南アフリカなどに分布する。国内ではチャ、ハナミズキやアジサイなどで、本種の加害が報告されている。海外においては、アボカドやコーヒーの重要な害虫として、また、アメリカでは、ランにおける被害の報告がある。カトレアへの食入加害が確認されたのは、国内では初めてである。

6 防除対策

- (1) 食入孔が見られるバルブは、見つけ次第除去し、処分する。
- (2) 現在、カトレアにおける本種に対する登録農薬はない。

7 連絡先

愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室
電話：0561-62-0085（内線471）



図1 カトレアの健全株と被害株
(被害株のバルブは変色)



図2 カトレア栽培温室の被害状況
(葉が枯れた株が散見される)



図3 シイノコキクイムシによる食入孔



図4 バルブ内部のシイノコキクイムシ幼虫



図5 シイノコキクイムシの幼虫及び卵



図6 シイノコキクイムシ成虫